

新たな成長に向けた「明日への行動」
～京都経済センターを核として、オール京都で新価値創造に挑む～

皆様、明けましておめでとうございます。

令和2年の干支は、庚子（かのえ・ね）です。十二支の最初の年である子年は、すべての始まりであり、可能性ある未来に向かって新しい芽が伸びる年と言われております。「令和」で迎える初めての新春にあたり、物事が好転し、未来の成長につながる明るい1年になることを願っております。

さて、京都経済百年の計として、念願の「京都経済センター」が完成いたしました。開業から10ヵ月が経過しましたが、未来の京都経済を牽引する学生、若者が夢を語り、夢を形にする拠点、また京都企業の「交流と協働」によるイノベーションの拠点として、昨年末で2万人を超す多くの皆さんにご活用いただいております。今後は、こうした活動を京都リサーチパークやけいはんな学研都市等の拠点と連携しながら、京都府全域に拡げていくことによって、同センターの設立効果を最大化させていかなければなりません。

いよいよ我々は、AI、IoT、ロボットや5Gなど、最先端技術やサービスによって、すべてのモノ・情報がつながり、社会や産業、生活での新陳代謝が加速する時代を迎えます。そこでは企業も人々のアイデア、技術・などの様々な知恵も「つなぐ」発想がますます重要となります。本日お集まりの皆様の企業におかれては、是非ともこの2020年を「新たな価値とつながり、明日へ向かって行動する」1年にして頂きたいと思っております。

京都商工会議所では行動の一つとして、他の経済団体にも協力を呼びかけながら、若手人材の育成やスタートアップ支援のための「産業人材育成基金（仮称）」を設置し、各事業をこの春よりスタートさせる予定にしております。他都市に先駆けてオール京都体制で起業家を育成する環境を構築するとともに、内閣府が主導する「スタートアップ・エコシステム拠点都市」の指定を京阪神の力を合わせて、勝ち取りたいと考えております。

また、一方で、「人生100年時代」に突入しつつある今、企業は高齢者就業を促し、シニア世代へ向けた、生活のための創業支援やリカレント教育などの取組についても皆様とともに真剣に考えていく時代を迎えています。ぜひ、現役時代の経験を活かしたシニア起業家が数多く生まれることを願っています。

そして、2年後には文化庁がいよいよ京都に移転してまいります。文化庁の本格移

転を成功へと導くために、本格的な準備を進めていかなければなりません。早急に、オール経済界としての準備組織を立ち上げ、円滑な移転や効果的な事業展開への連携等について具体化することを提案したいと思います。

結びに、私は本年3月をもって、会頭職を塚本能交さんにバトンタッチする予定としており、この場で新年の挨拶をするのは、本年が最後となります。これまで12年間、皆様方に大変お世話になったことを心から感謝申し上げます。「人の幸せを我が喜びとする」。これは私の座右の銘ですが、完成した京都経済センターでの「交流と協働」を拡大し、ぜひとも人々がいきいきと輝く幸せづくりのためのイノベーションによって新しい価値を生み続け、「夢のある持続可能都市・京都」を実現することを目指して、これからも皆様とともに、オール京都で力を尽くして参りたいと思います。

本年が、明日への希望にあふれ、京都企業がチャレンジ精神を奮い立たせ、大いに行動力を発揮する1年となるとともに、本日ご出席の皆様方のご活躍とご健勝を、心から祈念申し上げ、私の新年の挨拶とさせていただきます。

令和2年1月6日

京都商工会議所
会頭 立石義雄